

100年後に残したい地域ブランド

2017年10月31日

観光局設立準備室

1、地域ブランドとは

・ ・ 100年後にも変わらず残したい松川町の姿

- 1 競争力のあるアイデンティティ (他の地域にはない個性)
- 2 恒久的な中核的要素、個性を示したもの (変わらない本質の部分にある個性)
- 3 観光地域を形成する DNA を体現したもの (歴史的・文化的背景のある個性)

松川町では持続可能な地域であるために、交流人口の増加を一つの目標としています。具体的に観光を手段とした地域づくりを推し進めています。その核となるものが、地域ブランドです。

地域ブランドとは、松川町独自の松川町にしかない個性（アイデンティティ）です。旅行先、移住先に松川を選んでいただくため競争力を高める必要があります。そのため地域ブランドを言語化し、さらに磨きをかけいく作業が重要です。

そこで浮かび上がった松川町の個性を残していくことが、観光局の経営理念にもなります。

2、進捗状況

100年後に残したい地域ブランドを、松川町の観光まちづくりの目指すべき将来像として据えたいと考えています。

これまでに、観光交流地域づくり戦略会議（計17回）において、議論検討されてきた地域ブランド（キーワード＝自然、農、人（松川人））を基に、設立検討委員会において最終決定する予定としています。

本日の配布資料では、戦略会議で出てきたキーワードを拾い集め分類するとともに、現時点における地域ブランドのキャッチコピー（案）も併せて表記しています。

I. 自然に関すること

キャッチコピー 『2つのアルプスに抱かれた自然の恵』

自然の恵

松茸山 生田松茸 松茸のホイル焼き (梅松園)
水、空気、星空 (松川 澄んだ空気)
夏でも凍えるほど冷たい水の流れの来る間沢川の淵
山の恵み (虫、子どもの遊び場、水の源)
土壌、気候、風土

地形 段丘ゆえに場所によって山 (西) の景色が全然違う
壁のような東西の山脈にホッとする
家から下段までずっと下り坂 (4キロ)
田切地形
高台からのりんご畑や町を見下ろす景観
天竜川・・・

気象 朝焼け 夕焼け
谷を覆い尽くすガス
伊那山脈を泳ぐ 竜のような雲
山霧と靄
変化にとんだ景色

風景 2つのアルプス 天竜を挟んだ景観 両アルプスの眺め
西山から見えるアルプス、東山 (秋の紅葉の時期と真冬のコントラスト)
天竜川の向こうに見える天空の星
11月ごろの朝霧が湧いてくるところを増野から見下ろす景色、南アルプス
部奈から見る中央アルプス
屋根の上から見る、伊那谷の景色
増野の高台から見える南アルプスの眺め
冬の中央アルプスの朝焼け
南、中央アルプスの 冬景色
山々が見える松川・・・重なって見える 伊那谷ブルー
自然あふれる松川・・・生田 飯田線、青空の色
河岸段丘 くだものにも良い影響を与えている

生き物

ブッポウソウ

虫（カブトムシ、ホタルなど）
ツツザキノギク 絶滅危惧種
ホタル
溪流の魚

アルプス

岳の数々 かつこいい稜線
雪が積もった南アルプス
アルプスから日が昇り沈む・・・伊那谷だけ！
朝焼けと夕焼けとアルプス 赤いアルプス
桜とアルプスのアングル
二つのアルプスの玄関口

アクティビティ

小八郎登山（学校イベント）
片桐松川の子どもが遊べる水辺の風景
子供たちが自然の中で遊べる環境 山遊び 川遊び
自然体験（青年の家でやっている自然体験 バードウォッチング、キャンプ）
登山（山に登る文化、アルプスを望める里山
気軽に楽しめる山と川・・・小八郎 ハイキング気分楽しく登れる
天竜川・・・カヤック ラフティング 溪流釣り
片桐松川・・・沢登り
豊富な木材・・・地木材で家を建ててもらおう
苗木植林、下刈、枝打ち、間伐、伐採 50年以上続くアクティビティ

II. 農に関すること

『五感で感じる季節、本能を刺激する味。生きる智慧が生み出す小さな喜び。』

果物・農作物

果物観光業（先人たちの歴史

りんご おいしい果物 果樹 くだもの里“まつかわ”

市田柿

秘密の場所から採ってくる まつたけ

山菜

自然に対しての農

自然の厳しさ — 人間の健気さ 辛抱強さ

食べ物を作ること、厳しい土地で生き抜く知恵（食べられる食物を知っている）

春が急にやってくる

自然の恵みが身近

凍てついた大地が一気に息を吹き返す。花・緑・青のコントラスト。

農家 田ある風景

田んぼの周りのカエルの大合唱

田んぼスケート

電線のないところでの凧揚げ 前河原

果樹の特権 農家らしい一石二鳥

火 剪定枝→ 風呂、食事、 火を焚ける

剪定もやを使ってジャガイモを焼く

風呂の焚口で 野菜を焼いて食らう ナス・芋・クリ

生きる知恵

食べられる野草・木の実を知っている

自然の恵みが身近

野生のものを食べ歩く きのこと 茅の実

食 果樹・野菜・畜産（山羊・ウサギ・馬・豚・牛）

鹿牧場（おびき出す）→ジビエ 山の味 猟師の味

休耕地で畜産 放牧

果実の選別 → シードル作り

農家で採れた とれたて野菜で料理を作る

ヤギの乳を使ってチーズを作る体験

6 次産業

松川町産のリンゴを使ったお酒（シードル、アップルワイン、ブランデー）
酒（芋焼酎）
果樹園の中にあるワイナリー

風景

古町の田植えの後の風が通る 田園風景
春の果樹園の風景（リンゴの花、菜の花など）
秋の果樹園の風景（赤、黄色の実たわわ）
豚、牛、ヤギなどの家畜がいる農家
里山
季節の変化を感じられる果樹
松川インターから出てきたときに広がる風景 山や果樹園
農のある暮らし 果樹に支えられた里山の暮らし
リンゴが実る畑の風景
くだものの里松川・・・果物ができる気候、風土、桑畑から果物の里へ 土壌

文化・歴史

100年経った果樹栽培
農業（ホームステイなど体験を伴うもの）
終戦後入植して開けた 増野原 開拓地の開拓記念碑の庭、庭から見える南アルプス
作り、飲み、楽しむ文化
田植えの時に食べる五平餅（山椒味噌、竹の輪っかで作って串も竹、炭火で焼いたもの）
農業の技術（野菜作りなど）
果樹栽培にかける情熱・・・果物に情熱をかけて作ることができる
果物を愛する人々・・・生業にしている人も、それを求める人々

Ⅲ. 人に関すること

『おいなんよ。かまっちゃうに』

東西の文化の違いがある

山の中で暮らす人

東と西、天竜川をはさんで考え方/思いが違う

お祭り 300年続く御射山神社の御柱（上片桐）

1000年続く大州七椋神社の 千年杉（上新井）

大草履

保存会の集まり

まとまりがある地縁、自治会（部落とっていた）

清流苑祭り実行委員会

花火文化 花火の寄付

外の人にオープン

開拓して暮らす人

移住してきた人と会ってくれる

よそ者を受け入れてくれる。新しいモノ好き。

他の地域の人を受け入れられる（自地域が一番だと思っている裏返し？）

人柄— 良い意味でおせっかい

雪かき当番、通学路当番をする

チャンネル YOU の面白い企画ができる風土

飲み屋さんが多い 集うのが好き

お酒好き

飲み屋の量が多い 居心地の良い居酒屋がある

暮らし

消防団

夏場の寄り合いで、鉄板を持ち出し ジンギスカンをする文化 BBQ

生ビールのサーバーをかりてきて、自ら注いで飲む文化

今のような自治会組織

子どもたちが学校の行き帰りに畑で働いている大人とあいさつを交わす風景

隣近所とのつながり 寄合、付合い（消防、公民館の活動などなど

おすそ分け文化

放課後の図書館のにぎわい 城山の坂を歩く子どもたちの姿

太陽光発電に染まらない土地（地域づくりに活用できる太陽光）

自分の家から見える景色 山並み

人的ネットワーク ごぼとん井 人のからみやすさ。仲の良さ

文化をよってたかって大切にする (御柱、ジンパなど 多様な文化)

松川ワールド 人との距離の近さ、男女の仲が良いなど、

松川根性・・・優しい方言、町内で飲み会をする文化、他にはない松川の町の温かさ

多様な文化・・・大島、上片桐、生田

フロンティアスピリット 開墾 満蒙開拓団から流れて果樹へ

祭り

御柱祭 (7年に1回) きつねの嫁入り踊り

大島神社の春のお祭り

旧暦で行う年中行事 (どんど焼き、ひな祭り、七夕祭り など)

七椀神社の奏楽 獅子舞 花おどり おかめ踊り

花火 大きな祭りでも、小さな祭りでもあがる花火

食文化

ハチ追い

ごぼ豚井 (美富久の肉井 あぶら味)

郷土料理 (鯉、五平餅)

みどり色の五平餅

信仰

太皇神社の枝垂桜 (先人が育ててきた 手を入れて後世の人にも見てもらいたい)

七椀神社 千年スギ

街並み

各駅停車の飯田線、飯田線のカーブ

海拔 800mから見る松川町の風景

部奈の夜景 生東

温泉 (清流苑)

とても静かだが、ぽっぽと見える人の暮らしがある生田

味のある商店がなくなるしない街 (地元を活用する、人づくり)

程よい街の規模・・・人と人との距離感

食べてよし、飲んでよし松川